

平成21年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立串本・串本古座高等学校 学校長名：井上 雅雄

目指す学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 恵まれた自然環境と伝統を基礎に、地域の教育及び文化の拠点として、全教職員によるきめ細かい指導で生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす地域に信頼される学校 一人ひとりが自分を大切に、社会性と個性をバランスよく身につけ、高い志を抱いて、自己の能力を最大限に伸ばしようとするたくましい生徒
-------------------	---

本年度の重点目標 (学校の課題に即して、具体的に明確に記入する)	1 生徒の学力の伸長をめざし授業及び補習、補充等の個別指導の充実を図る。
	2 生徒指導、進路指導を充実させるとともにキャリア教育を推進し進路実現を図る。
	3 部活動、学校行事、体験学習、ボランティア活動等を通し自主活動の活性化を図る
	4 地域との連携を強化し、地域の資源を活用した開かれた学校づくりを推進する。

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善策の公表の方法
本シートを本校HPに掲載し、公表する。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価

重点目標

年度評価 (3月26日現在)

番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒の学力幅が広く、基礎学力が十分身につけていない生徒も見られる。生活面でも一人ひとりが抱える課題が大きく異なっているため、個性や能力に応じた個別の対応に力を入れている。教職員全員が生徒それぞれの目標や課題について共通理解を努めるとともに、効果的な指導を組織的に展開していくことが必要である。	①全教職員の共通理解の下、教育活動全般について、生徒一人ひとりに応じた適切な指導が行われているか。 ②生徒の実態を踏まえた教育課程編成がなされているか。 ③指導法の改善に向けた研究や取組が行われているか。 ④適切に評価がされそれが生かされているか。	<ul style="list-style-type: none"> きめ細かい指導を行うための習熟度別授業、及び少人数HR編成の実施 補習補充等の個別指導及び自主学習会の開催 授業改善に向けた公開授業や研究授業の実施および研究会の開催 生徒による授業評価の実施と活用 生徒理解のための現職教育の実施 委員会での教育課程についての検討 選択科目ガイダンスの開催 三者面談、個別面談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 12年英数国で習熟度別授業実施 普通科6組の9HR展開を実施する 学期末成績不振者数を20%以下に抑え、進級生徒数を5人以下にする 各学期公開授業週間の設定、教科ごとの研究授業、研究会を開催する 生徒授業評価検討会を開催する 学期ごとに実施する 教育課程検討委員会で検討する 2学期に開催する 各クラス複数回実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ①習熟度別授業、少人数HR編成等制度面での工夫と個別指導、補習等の実施によりきめ細かい指導を行った。仮進級生徒5名以下は達成できなかった。 ②検討委員会等での見直しを継続しながらより生徒の実態にあった教育課程編成を行ってきた。 ③今年度より教科ごとの研究授業を実施、公開授業、授業評価の活用等も合わせて授業改善に向けた取組を行った。 ④生徒授業評価、外部評価等を行い今後の教育活動に生かす取組を行った。 	B	制度や取組等の面での改善はほぼできてきているが、今後は効果的な運用及び内容面での充実が課題である。そのために <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業や少人数HR展開等の成果等についての検証 研究授業等の取組内容の充実、及び一人ひとりの授業力の向上にむけた取組の伸展 授業評価の継続した検証と今後の授業への反映のてだでの考察。 に取組んでいく。
2	生活指導面では、身だしなみや挨拶等、高校生としての品格を重視する指導を積み重ねてきた結果、以前に比べると生徒は落ち着いた状況にある。生徒の多くは進路目標を定め、それに向けて努力しているが、中には自らの将来についての展望が持てないままの者もいる。落ち着いた生活環境をベースに目的意識を明確に持って進路実現のために前向きに取り組んでいくような生徒の層を増やしていくことが必要である。	①全教職員による組織的計画的な取組が行われているか。 ②人権尊重の姿勢に基づいた指導となっているか。 ③全教職員の共通理解の下、教育相談活動が適切に行われているか。 ④3年間を見通した組織的計画的な進路指導が行われているか。 ⑤ガイダンス機能は充実しているか	<ul style="list-style-type: none"> 毎月初めの生徒指導全校集会の開催および定期的な身だしなみ点検指導 休憩時間中の校門指導、トイレ廊下指導、校内巡視、列車指導等の実施及びHSCを活用した教育相談の充実 地元警察署と連携した各種講演会や学習会等の取組の推進 求人企業、指定校推薦大学等の開拓 早朝、放課後、土曜日曜学習会等の開催 各学年別学期ごとの進路ガイダンス及び進路講演会等の開催 インターンシップの企画及び実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 無断アルバイト、頭髪服装違反をなくす 校内での特別指導件数を昨年以下とする。 交通安全、薬物被害、サイバー犯罪等の各種講演会の開催、及び警察署に生活安全キャンペーンへ参加する 学校幹旋による希望生徒全員の就職内定及び進学希望生全員合格、国公立大学合格二桁を達成 各学年3回以上の進路ガイダンスを実施する 1学年でインターンシップを企画し実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒指導部を中心に登校指導、校内巡視、定期的な身だしなみ指導等に取り組んできた。特別指導件数は昨年を下回った。 ②生徒の学習権やより実態にあった効果的な指導という点を考慮し登校謹慎等を多く導入する等特別指導の在り方に見直しを行っている。マナーアップキャンペーンや地元警察署の毎月の街頭犯罪防止活動等への協力を行った。 ③特別支援コーディネータを中心としてHSCを活用しながら担任、保護者の連携を重視した指導を行った。特別支援に係る全教職員による現職教育にも取り組んだ。 ④キャリア教育の充実に向けて、インターンシップやガイダンスを重視した進路学習に取り組んだ。補習や夜間、土日の学習会等も実施した。就職は学校幹旋については全員内定進学は目標達成には至らなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別指導の件数に見られるとおり生徒の状況は落ち着いてきているが、遅刻や身だしなみ等の面での課題のある生徒も依然として見られるので職員全員での継続的、組織的な指導を行っていく。 インターンシップについては次年度は夏季休業中に3日間実施する予定。また、進路ガイダンスもより生徒のニーズや実状に合致したかたちで継続して実施する。 進路指導は一人ひとりへのきめ細かい対応を中心に今年並の取組を行うが、より内容面での充実をめざす。
3	クラブへの加入率が高く生徒は意欲的に活動に取り組んでいる。学校行事等や総合学習などでも地域の特色を生かした体験活動等に取組んでいる。さらに生徒が自主的主体的に活動し、それを通じて集団の中で自主性や社会性、規範意識や判断力、良好な対人関係構築能力等を身につけられるような取組にまで発展させていくことが必要である。	①全教職員の共通理解と明確な目標設定の下に年間計画が作成されているか ②学校行事において生徒の実態や地域の特色などを生かした活動が行われているか。 ③ボランティア活動その他の体験活動が実施されているか ④生徒の自主的、自立的な活動ができているか	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体となった生徒会行事の開催及び行事終了後の評価の実施と活用方法や課題についての検証 ボランティア行事への参加啓発及び学校全体としての取組の推進 総合的な学習の時間等を利用した体験学習、国際交流活動等の実施 クラブ活動への参加奨励及び積極的な指導 古座分校舎とのクラブ、学校行事等での交流の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 行事についての生徒評価を実施し活用する 夏季休業中に全校生徒によるボランティア活動を実施する。 体験学習、国際交流活動の機会を複数回以上設ける クラブ活動加入率を80%以上とし、全国大会出場、県大会上位入賞を達成する 古座分校舎との間でクラブ活動の統合を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年間計画に沿って予定の行事が実施され生徒による評価も行った。 ②文化祭、体育祭等には地域や保護者の参加も多く生徒の活動状況も積極的であった。 ③全校生徒による奉仕作業に取り組んだ。また、個別の活動への参加を奨励した。 ④クラブ加入率は文化、体育のべで106%で加入率は高い。全国大会、近畿大会出場クラブや県大会上位入賞を果たしたクラブもあった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 少ない生徒数の中で行事等における生徒の活力が失われないよう、古座分校舎との合同開催等も含めて企画していく。 次年度文化祭は第1日を目共同開催とする。 両校舎合同で活動しているクラブ活動についても串本古座高校全体としての活性化を図るために、生徒や指導者の相互交流の推進、外部コーチの活用等の取組を進めていく。
4	地域に同窓生も多く、生徒のほとんどは地元中学校の出身であるという地域密着型の学校であるため、連携や協力なども進めやすい状況である。防災安全も含め、地域の資源を活用した教育活動を一層推進するとともに学校の教育活動、特色についての広報活動に努め生徒募集態勢を強化し定数規模に合致した入学生を確保することが課題である。	①他校種、地域、家庭、関係機関等との連携に向けて具体的な取組が行われているか。 ②学校の教育活動等について外部に対して広報されているか。 ③地域の教育資源を積極的に活用しているか。 ④学校内外の安全管理体制の充実強化が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 校外の施設や人材などを活用した授業、講演会等行事の開催 地元中学校との交流活動の実施 校内の教育活動についての広報活動の推進 国際教養科志願者増を図るための運動の推進 中学校訪問、説明会等を通じての新生入生、保護者へのPR活動の推進 育友会、同窓会と連携した種々の教育、啓発活動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> OB等外部講師を招いての講演会を開催する。 中学生との合同行事を実施 毎月のHP更新、マンスリー等を関係機関に配布 国際教養科についての学科説明等の広報活動を重点的に東西両郡内中学校で実施する 各学科の定員の欠員を5名以内とする。 育友会員の校内行事への参加を複数回実施させる 	<ul style="list-style-type: none"> ①先輩の講演会等外部講師による講演会、学習会や育友会員が参加する行事を開催した。 ②HPやマンスリー等での校内教育活動の広報を行った。国際教養科の教育内容、特色等について学校説明会等でも重点的にPRしたが、普通科の定員は充足したものの国際教養科は依然として欠員が生じた。 ③総合的な学習の時間等で地域の教育資源を活用したフィールドワークを行った。 ④安全管理については一層の充実強化が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画に沿って総合的な学習の時間の取組の充実を図る。 中学生オープンスクールの内容について再検討し、参加者増を図るとともに、4月の中学校訪問時やその他様々な機会に国際教養科の特色や取組、成果等について広報活動に努め志願者増を図る。 県高校生防災スクール開催を契機に防災学習に重点的に取組み、一層の防災意識の向上を図る。

学校関係者評価

平成22年2月28日 実施

学校関係者からの意見・要望・評価等

評価	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちの様子としては全体的に落ち着いていると思います。一部生徒の行動が良くないと思います。(化粧、服装の乱れ、遅刻者が授業時間中にふらふら町中を歩いている。)学校全体のイメージダウンになっています。 生徒一人ひとりに目が行き届く小規模校の利点を生かし学習進路指導に先生方が日夜力を合わせて取り組まれていることに敬意を表します。 昨年度の野球部ベスト4に象徴されるように少人数の中でも部活動が活発に展開されていると思います。国際交流活動ともども応援しています。 土日やお盆も正月も熱心に指導していただき大変感謝しています。ただ普段の授業によって中身の濃さにばらつきがあり、むだ話で一時間が終わったという子どもの不満もありました。教育方針については満足しています。指導方法についても十分だと思えます。教師と生徒の関係で友人関係的なところが少し気になります。 先生方は良くやってくれていると思いますが、全体的にレベルが下がってきているように思います。同じ校舎の中で差が大きいすぎるのでは?それが狙いなのでしょうか? その地域や学校の実状にあった取組をしているように思います。 外から見ていただけでは評価できないことが多い。 授業のみならず課外活動にも熱心に取り組んでいる点が評価できると思います。
要望等	<ul style="list-style-type: none"> 課題ではありませんが、日本トルコ友好120周年の年、地域等への活動にさらなる協力を期待します。 各クラブが地域や中学校などに出て行ってクラブの特色を生かした活動をさらに進めて下さい。 学校の様子、生徒の活動の様子等がわかる通信等を数多く出して欲しい。 新たな「就職氷河期」ともいわれる中、求人開拓とともに特に情報コース生徒の基礎学力の強化、部活。ボランティアへの積極的な参加等を一層推し進めて欲しいと思います。 下校時など制服の着崩し、かかとを踏みつけた通学靴、自転車の二人乗りや交通マナー等がまだ日常的に目につきます。保護者や地域の関係機関とも連携し、ねばり強いご指導をお願いします。 制服の乱れ(着崩したり、スカートの長さ等)や言葉つかいなど一部の生徒の身だしなみが改善されること。 クラブ活動に熱心な所は評価できます。一方で過度の練習は少し気になるところです。少しは息抜きも必要ではと思います。 制服の身だしなみ、式や体育祭のとき案内板表示して下さい。 全体的に学習意欲が下がってきているように思うので早いうちから意欲をもてるようなシステム作り、進路を考えやすいように、いろいろなモデルの提示。 地域の高校であるにもかかわらず地元との関係が希薄であるように思います。 外部から見た学校という点でいくと生徒たちの姿や行動、部活動の成果くらいしか見えてこないのもう少し生徒の外見的な面も含め基本的な生活習慣や規範意識をただすようにしていただきたい。 就職活動をもっと積極的にして欲しい。